

園児がヒマワリの種まき

6月2日午前10時30分、区立井草森公園（井草4-12-1・電話5310-4515）では、近隣の保育園児など300名の力を借りて、ヒマワリの種まきを行いました。ヒマワリは、区の交流自治体の北海道名寄市から届けられたもので、7月下旬から8月上旬に花の見頃を迎えます。

杉並区の北西にある井草森公園は、国の機械技術研究所がつくば市に移転した跡地に、平成8年3月に開園しました。約39,500㎡の敷地があり、大きな樹木がつくる木陰と明るい芝生の広場、そして天然芝のサッカーやラグビーができる運動場が整備されています。そして、開園以来、地域の人たちが楽しみにしているのが、四季折々の花になります。春のサクラやナノハナ、夏のヒマワリ、秋にはキバナノコスモスが定番です。



こうして「花の名所」として多くの区民から親しまれていますが、特に人気が高いのがナノハナとヒマワリです。この2つの花は、公園内にある500㎡ほどの花壇いっぱい咲くので、それは見事です。しかし、理由はそれだけでなく、この2つの花は地域の子どもたちが種まきを担っているため、少しずつ成長する姿をみんなが見守っています。

2日午前10時30分、近所の保育園・幼稚園に通う子どもたち約300人が、ヒマワリの種まきに参加しました。花壇は公園の職員があらかじめ耕してあるので、子どもたちはそれぞれ5粒ほどの種を受け取り、小さな指で土に穴をあけて丁寧に植え付けていました。子どもたちは、「はやくおおきくなってね。」「きれいな花をさかせてね。」と願いを込めながら作業をしていました。

このヒマワリは、杉並区の交流自治体である名寄市から届けられた「ビッグスマイル」という品種で、高さ1メートルに満たない小さくて観賞しやすいところが特徴です。名寄市は、市内各地でヒマワリを見ることができ、その面積は東京ドーム13個分、総本数は500万本を超えることから「ひまわりのまち」として知られています。井草森公園の花壇には、子どもたちの手で約2,000粒の種を播きました。ヒマワリは、7月下旬から8月上旬に見頃を迎える見込みで、公園を訪れる多くの人を楽しませることでしょう。